

令和3年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間 最終)

函城中学校区 校番 20 学校名 港町小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	<p>① 主体的な学びの推進による基礎基本の定着と思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>・算数科の授業研究を通して、基礎基本の定着と主体的な学びを推進する。</p> <p>・総合的な学習の時間において、対話的・協働的な学びを工夫することで、思考力・判断力・表現力を高める。</p>	<p>・算数科1学期市販テストでは、平均点80点以上の目標を達成することができた。授業の初めや給食準備時間にスキルタイムとして、計算カードやタブレットドリルに継続して取り組んだことで、計算力が向上したと考える。しかし、スキルタイムが授業時間内にできないことがあるなど、どのようにスキルタイムを設定するかは課題が残る。</p> <p>・「教えて考えさせる授業」をすることで、苦手な児童もその授業には参加しやすかった。しかしチャレンジ問題を全員がやり切ることはできなかった。</p> <p>・テーマに沿って課題等を見つけ、グループごとに自分達で調べたりまとめたりするなど、協働的な活動に取り組ませたことで、課題発見・解決学習に関わる児童の肯定的評価は80%以上達成することができた。</p> <p>・一人一台タブレットが配布されたことにより、インターネットで調べたことをノートや新聞にまとめ、表現力を高めることができた。</p> <p>・コロナウィルス感染防止の観点から、校外での見学を伴う学習が制限されたため、学習内容や時期を変更した。</p>	<p>・スキルタイムを授業内に短時間でできるように学年実態に応じて、タブレットやプリントを使い分けるなど工夫してスキルタイムを設定する。</p> <p>・「教えて考えさせる授業」の研修を進め、算数科を中心に授業案を考え、実践する。また、「ふりかえりのポイント」を各学級に掲示し、授業の終わりに具体的な観点で学習の振り返りができるようにする。</p> <p>・呉版単元構想シートを活用して1学期の単元構想をポイントに沿って見直すとともに、2学期の単元について、探求的な学習の過程に沿ったものになるように計画する。</p> <p>・今後も、タブレットを活用した調べ学習を進め、目的や相手を意識して新聞やスライドにまとめるなどして表現力を高める。</p> <p>・感染状況を見ながら、ベアトークやグループ学習を仕組むことで、協働的な学びができるようにする。</p>
**	<p>① 自他を大切にし共に高め合う児童の育成</p>	<p>・縦割り班活動等の充実や相互評価の工夫を図ることで、自他のよさに気づき、互いを思いやる態度を育てる。</p> <p>・響き渡る挨拶(校内、友達、来校者、見守ってくださる地域の方等)を目指す。</p>	<p>・それぞれの委員会で、毎月ごとや2ヶ月に一度の「名人」の掲示をすることができた。</p> <p>・縦割り班活動において異学年と関わることで、基本的な掃除の仕方や集中して活動する姿勢を、よいモデルとして学ぶことができた。また、掃除の反省を通して、その日のがんばりを自己評価・相互評価することで、それぞれのよさに気づくことができた。</p> <p>・縦割り班掃除のありがとうメッセージでは、書いたり渡されたりすることを通して、感謝の気持ちをもたせることができた。</p> <p>・自らあいさつする児童が6年生は多いが、他学年は少ない。</p> <p>・運営委員会では、どんなあいさつをすればよいか全校に呼びかけたり、あいさつ週間の際に、児童玄関に立ち、気持ちのよいあいさつをしている児童を紹介したりすることで、児童主体の活動にすることができた。</p>	<p>・コロナ禍で掲示ができなかった委員会は、コロナ禍でもできることを児童に見つけさせるようにし、2学期に行う。</p> <p>・縦割り班掃除では、班によって掃除や反省の仕方にばらつきがあった。2学期始めに、児童や教職員全体でよい掃除(ビデオ)や反省の仕方(「みなとの掃除はさしすせそ」：雑巾と箒、箒のゴミのチェック)を全体共有し、縦割り班掃除の全体でのレベルアップを図る。</p> <p>・「あいさつ名人」になると、学校で用意するシールを指定の欄に貼るなど、適切な評価を行うことで、児童の意欲を高める。</p> <p>・あいさつについて児童アンケートを9月に実施し、児童の実態把握を行い、改善につなげる。</p> <p>・月初めのあいさつの呼びかけを放送委員会が朝の放送でする。</p>
*	<p>社会で生き抜くための体力と生活習慣の向上</p>	<p>・外遊びの充実により、体力を向上させる。</p> <p>・基本的な生活習慣の質を高め、メディアコントロールができる子どもを育成する。</p>	<p>・1学期に実施した50メートル走の記録が、県平均を上回っている児童の割合が44%であった。コロナウィルス感染症対策のため、遊びや体育で実施できる内容に制限があることも原因の一つと考える。</p> <p>・低、中学年のほとんどの児童は休憩時間に外に出て元気よく遊んでいが、高学年は低、中学年に比べて少ない様子だった。</p> <p>・走力を上げる走り方の参考資料を授業で活用することで、授業改善することができた。</p> <p>・1学期に実施した、2回のノーメディアの取組では、平日にメディアを見た時間が1日2時間未満を達成した児童の割合は全体の66%であった。高学年のほうがメディアに触れる時間が長い傾向がある。</p> <p>・ノーメディア週間では、家庭内で意識してメディアコントロールをすることができている様子が多く見られた。しかし、一部の児童やノーメディア週間外ではゲームなどにのめり込んで、多くの時間を費やしている。</p>	<p>・1日1回外遊びを確実に実施できるように、各担任から周知を行うと共に、保健体育委員会で学期はじめに「外遊びバナーアップ週間」を実施する。</p> <p>・保健体育委員会が実施する外遊びキャンペーンを走力に関するもので実施する。</p> <p>・6年生に外部講師を活用した走り方教室を実施し、6年生から他学年に指導を行い、正しい走り方を全校に広げる。</p> <p>・ノーメディアウィークの期間はタブレットを含め全てのメディアの時間を減らし、取組期間外では、タブレットドリルや電子図書の時間を含めながら、メディアの時間をコントロールできるように指導を行い、意識付けをする。</p> <p>・保護者向けのメディアコントロールに関する資料を配布する。</p>
業務改善	<p>・教職員が自らの意欲と能力を發揮できる教育環境の整備</p>	<p>・児童と向き合う時間を確保する。</p> <p>・長時間勤務の削減を行う。</p>	<p>・朝の時間や給食時間に担任外が補助をすることで、児童への個別指導ができた。</p> <p>・昨年度に続き、朝読書の時間を20分設定することで、朝のうちに宿題や提出物の確認ができ、児童と向き合う時間が確保しやすかった。</p> <p>・学期末に成績処理の仕事が集中してしまい、勤務時間外の仕事が増えた。</p> <p>・懇談会の時間を勤務時間外に希望される保護者(今回は認められたが)の対応をどうするか共通認識が必要である。</p>	<p>・朝のわくわくタイムを、今後も続けることで、児童と向き合う時間を確保する。</p> <p>・テストの採点やデータ入力など成績処理の仕事を計画的に進められるようにする。</p> <p>・各教員が持っている業務改善のノウハウを交流する研修を行い、出し合った事例を参考にし、2学期からの実践につなげる。</p>